

# 宇工高同窓会々報

## 同窓会長挨拶

同窓会長

増 淵 芳 男



平成十八年の新春を迎え同窓会の皆様にはご健勝にお過ごしのことと存じます。

私は同窓会長に選任され三期目の春を迎え、昨年着任されました現宇賀神校長に至る迄、元高桑校長、前岡田校長の三代の校長と共に、創立八十一年の折には、全国高校初の「ISO」の認証を取得、環境大臣賞を得た事は宇工校の歴史に残る識見と実践力を備えた学校と存じます。

また、昨年宇工校の移転、改築問題について教育委員会

主催の学校整備について三度の会議があり、五箇所の候補地の内、県営競馬場跡地、雀宮駅東の地の2箇所に激選されました。いずれ本年3月中には、移転先が決まるものと思われま

さて、参万余名の同窓生は、地元、及び全国各地の産業界で活躍され「一人は一校を代表す」の校訓を堅持、終生忘れ得ぬ心得として歩んでいるものと存じます。

最近の世情による生徒たちは、我儘の生活が次第に多くなり、宇工での3年間の生活は、大人に成る前の人生に於ける一番思い出多い時期かと思われ「交友」「思いやり」「我慢」の教育が大切かと存じます。何卒、諸先生方に於かれまして、ご指導の程宜しくお願い申し上げます。生徒は部活動等で扱かれ、上下の厳しさを知り、汗した者こそ実社会に通じる人物に成るかと

最後にいつの時代にも誠実で思いやりのある、勤勉で意欲的な宇工卒の技術者を輩出して頂きたく、諸先生、PTA、同窓会、共々協力し宇工卒の技術者にふさわしい人物を、育成の程お願い申し上げます。私の挨拶と致します。

## ごあいさつ

学校長

宇賀神 文 雄



会員の皆様には、常日頃より本校教育の発展のために物心両面から御支援・御協力いただいていることに心より感謝申し上げます。

さて、平成十七年度も残り僅かとなりました。顧みますと、本校にとつて新しい動きが始まった年度であり、大きなところではつぎの二点です。

まず、本校が将来科学技術高校としてスタートする場所の決定でした。会員の皆様には、色々ご心配をいただきました。特に増淵同窓会長様には、本校の将来のために、奔走され、会員の皆様の御意見をまとめ、その結果を度々お寄せいただきました。その都度、同窓会長様を始め、会員の皆様の母校に対する熱い気持ちがあひひしと伝わってきました。建設予定地は、一月十六日の教育委員会で決定されました。私としては、ようやく科学技術校へ向けてのスタートが切れるという安堵の念を強くしたところです。そして、会員の皆様は築いてこられた八十二年の伝統を基盤に、工業高校としてゆるぎない学校にしていかなければならぬと意を強くしたところでもあります。そのためには同窓会員の皆様の声を聞く機会を今まで以上に多くしていかなければならないと考えております。もう一点が文部科学省から指定を受けて今年度から活動をスタートした『目指せスベ

シヤリスト』の研究です。全国の工業高校で7校目の研究指定です。本校の教育活動、部活動、特別教育活動等のレベルの高さが評価されての指定ととらえております。研究内容は、災害時に活用する環境に配慮した組み立てユニット住宅の製作を中心に、地域連携活動(高大連携、産学連携、地域貢献活動)と国際交流活動を行います。科学技術高校が目指す『ものづくり県とちぎ』を担う高度な技術力、国際的視野を持った将来のスペシャリストの育成にこの研究活動は大いに資すると考えております。この研究活動についても、会員皆様の御指導・御支援をいただくと多々出てくると思ひます。

このように本校は、更なるステップアップのための変革期に入ろうとしているところです。職員一同、本校が置かれてある立場(保護者の期待、同窓会の期待、地域の期待)を踏まえ、生徒の教育に取り組んでまいりますので、会員の皆様は温かいご支援・御指導・御協力をお願いいたします。

# 今、望むこと

昭和二十七年 度 インテリア科卒業  
大谷 碩 郎

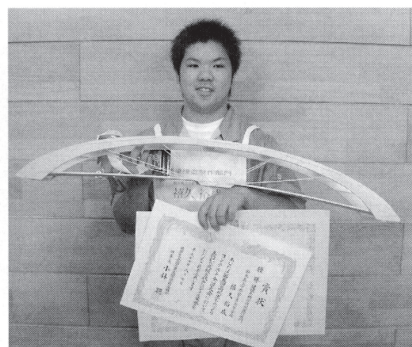
私は年男です。七十二才になる老犬ですが、私の人生は宇工と共にあったと言っても過言でないと思っています。退職前の数年を、出口前会長の下で事務局長を務めさせて頂きました。

後、どのような結果に納まるかは分かりませんが、老犬は去る時期が来ている様です。次代を担う方々は、清濁併せて呑む度量が求められる事も起きていると思いますが、建設的英知を持ち寄って「魅力ある同窓会」を構築して下さい。五〇〇字程度との御達しですので、思いの全てを書き尽くす迄は至りませんでした。皆様の更なるご健勝とご活躍を祈念申し上げ、筆を擱きます。

## 第五回高校生ものづくりコンテスト全国大会

橋梁模型製作部門 優勝  
土木科二年 榎久 裕 成

これまでの先輩方が築いてきた三年連続全国大会出場。私はこの記録を続ける思いで、何度も練習を繰り返してきました。気がつくとも実習室は模型の山でした。おそらく五十個以上は作ったと思います。また、より軽くて美しい模型をつくるためにインテリア科の先生から木材の性質や道具の使い方を丁寧に指導していただきました。そして、鉛色に輝く道具をお借りして、全国大会へと臨みました。



きたのだから、緊張したってしょうがない。今ままで最高の作品をつくらう。」と自分に言い聞かせて頑張りました。ほぼ、練習してきたとおりの模型ができました。載荷試験では、いくつもの模型が荷重に耐えきれずバキバキと音を立てて破壊しました。「どうか、もってこれ。」と、祈るような気持ちで自分の模型を見守りました。この時間は、いままで一番長く感じました。審査結果の発表時、「関東地区代表」と聞いても、自分とは思えずにいました。氏名を呼ばれても、うれしさをどう表現してよいかわかりませんでした。表彰されていたときも、夢の中にいるようでした。このような大きな結果につながったのも、多くの先生方に指導していただいたおかげだと感謝しています。

## ワールド・ロボット・オリンピアード二〇〇五世界大会

生産システム研究部

平成十七年十一月五・六日にタイ王国のバンコクで開催されたロボット世界大会に、顧問の蓮田裕一先生の引率のもと、電子機械科二年の田所裕貴・吉澤雄太・電子機械科一年鈴木康史の三名の生徒が出場しました。



がらもコースアウトし、リタイアとなってしまいました。

今回の世界大会では韓国、シンガポール、中国、ロシアなど十二カ国から一二四チーム四六〇名が参加しました。八月に国内で開催されたコンテストで優勝した後、十月の日本代表選考会でさらに優勝し、世界大会出場が決定しました。世界大会では次に紹介いたします二種類の競技が課せられます。

「Bangkok Traffic」競技では、床の青パネルを光センサーで認識してゴールを目指します。学校での練習では、順調にゴールを目指すことができましたが、現地で初めて見たコースは、想定とは大きな違いがありました。

私たちは、着実に色を捕らえるよう、速度を落とすして進む方法を選択しました。しかしゴールまであと一歩としな

「Hockey Practice」競技は、センサを駆使して壁で仕切られた迷路を抜けゴールを目指すものです。二回目の走行は、快調に迷路を抜けてゴールしましたが、ミスジャッジによりリタイア宣告をされました。日本チームはゴールを訴えましたが、審判の裁定は絶対というルールのため結果は覆らず、残念な思いをしました。しかし、二回目の走行では見事にゴールして、好記録を残す事ができました。

今回のWRO大会で世界の強豪と対戦し、多くのことを学びました。それらの貴重な体験を活かして、二〇〇六年の大会にも出場出来るように、頑張りたいと思います。

# 第二十五回本田宗一郎杯 Hondaエコノパワ 燃費競技全国大会

## 二人乗りクラス優勝

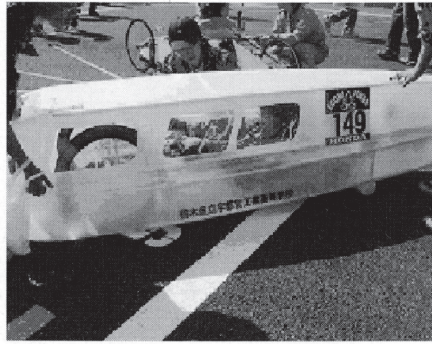
### 科学技術研究部

平成十七年十月一、二日の二日間にわたりツインリンクともてぎにおいて、第二十五回本田宗一郎杯Hondaエコノパワ燃費全国大会が行われました。この競技は、一リットルのガソリンで何km走れるかを競う競技で、車両の性能、ドライバーの技術、チーム力のどれか一つが欠けても、好成績に結びつかない競技です。

科学技術研究部の車両系統技としては、春の燃料電池車の大会（秋田、ジュニアクラス優勝、総合四位）、夏のワールドソーラーカーレース（鈴鹿サーキット、四時間耐久クラス第二位）に続き、今年最後の全国大会参加ということ、三台のマシーンを用意し大会に挑みました。

大会当日は晴天に恵まれ、車両にとっての条件としては申し分ない状況でしたが、同時にドライバーにとっては狭いコックピットの中で、暑さに耐えながら集中力を持続しなければならぬ、とても過酷な状態にありました。こ

の競技はスピード競技ではありませんが、他のモータースポーツと同様、一瞬の判断ミスが記録に影響し、また事故にもなりかねないからです。そのような状況の中で、二人乗りクラスに参加した宇都宮工業高校Cチームは、一リットルあたり八八七・五二九kmを走行するという好記録をマークし、優勝することができました。



さらに、車両外観からは、とても二人が乗っているとは思えないというところで、マスコミ選出の「話題賞」も受賞することができました。

しかし、まだまだマシーンには改良の余地があり、課題も多く残されています。これからも、さらに大記録を出すことを目標として、活動を続けていきたいと思います。

## 進路指導部報告

今年度の現在までの進路状況は全体的に見れば、就職、進学ともに良好であると言つてよいと思います。

まず就職関係ですが、学校の斡旋を通して就職を希望する者一九五名全員が、すでに内定を頂いております。この状況は、景気の回復が多少見られ、製造業関連企業の求人数が増加したことによるものと考えられます。近年不況が続いている建設業関連企業においても、生徒の努力ばかりではなく、諸先輩方からの支援を賜り、希望者全員が社会人として羽ばたく準備ができました。企業の採用の方とお話しすると「先ず宇工高から」という、ありがたい言葉を頂くことがあります。これは、宇工高に厚い信頼を寄せ、本校生の将来に大きな期待を抱かれています。証拠であると思えます。このような結果、求人社数が県内三一社、県外二一〇社、合計五二二社（昨年度末四七八社）と昨年度に比べ、一〇%程度増加し、本校生が恵まれた状況にあることがわかります。これも諸先輩

方が実社会や企業で活躍されているからこそ、頂ける評価だと考えます。深く感謝申し上げます。

次に進学状況ですが、大学短大希望者九二名、専修学校内定者五七名、産業技術学校内定者八名となっております。

しての実力を身につけ、自分のキャリアデザイン実現のため、確実に努力を積み重ねることのできた者に開かれた道であると思えます。次に主な進学先を上げておきます。

### 四年制大学

- 宇都宮大、福島大、名古屋工大、室蘭工大、東京海洋大、千葉大、京都教育大、前橋工科大、日本工大、日本大、東洋大、神奈川工科大、帝京大、作新学院大、武蔵工大、他

### 短期大学等

- 宇都宮短大、佐野短大、栃木県産業技術大学校、関東職業能力開発大学校、等

### 専修学校

- 日産自動車専門学校、TBC学院、宇都宮日建工科専門学校、宇都宮メディア・アート専門学校、マロニエ医療福祉専門学校、トヨタ東京整備専門学校、等

将来を真剣に考え、計画的に学習に取り組んだ者や、部活動に参加し、研究活動の成果を多くの機会を発表してきた者が、その実績を高く評価され、進学しています。その他にも、新しい入試制度や、専門高校推薦枠を活かして合格する者も増加傾向にあります。どのような状況にあっても、三カ年を通して本校生として

途中報告になりますが、これらの結果は在校生の努力ばかりでなく、諸先輩方の後輩たちへの熱い応援によることも多大であると思えます。これからも宜しく願います。

平成16年度収支決算報告

平成17年度予算(案)

(1) 一般会計

収入金 7,428,926円
支出金 2,587,121円
残金 4,841,805円

自平成16年4月1日
至平成17年3月31日

(1) 一般会計

収入金 6,895,176円
支出金 6,895,176円
残金 0円

自平成17年4月1日
至平成18年3月31日

■収入の部

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減(△), 備考. Rows include 繰越金, 永久会員費, 入会金, 教育活動後援費, 雑収入, 計.

■収入の部

Table with 5 columns: 科目, 16年度予算額, 17年度予算額, 増減(△), 備考. Rows include 繰越金, 永久会員費, 入会金, 教育活動後援費, 雑収入, 計.

■支出の部

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減(△), 備考. Rows include 会議費, 事務局運営費, 渉外費, 事業費, 教育活動後援費, 慶弔費, 予備費, 計.

■支出の部

Table with 5 columns: 科目, 16年度予算額, 17年度予算額, 増減(△), 備考. Rows include 会議費, 事務局運営費, 渉外費, 事業費, 教育活動後援費, 慶弔費, 予備費, 計.

(2) その他

① 基金

Table with 2 columns: 基金, 100,000,000. Includes 足利銀行, 栃木銀行, 農林中央金庫, 中央三井信託銀行, 商工中金, 日光杉並木基金, 90周年準備金, 中央三井信託銀行.

※基金利子については一般会計に組み入れる

(2) その他

① 基金

Table with 2 columns: 基金, 100,000,000. Includes 足利銀行, 栃木銀行, 農林中央金庫, 中央三井信託銀行, 商工中金, 日光杉並木基金, 90周年準備金, 中央三井信託銀行.

※基金利子については一般会計に組み入れる

同窓会定期総会報告

平成十六年度総会は平成十六年六月二十五(土)、ホテル丸治にて開催されました。平成平成十六年度決算及び、平成十七年度予算案が掲載してありますのでご覧下さい。

緊急常任理事会について

平成十七年度常任理事会時に、宇工高の移転問題について、総会前に同窓会として今後の対応について話し合い持つべきとの意見が集約されたため、緊急の常任理事会開催されました。日時・内容等は以下の通りです。日時 平成十七年六月十三日 場所 護国会館

- 一、科学技術高校の校地選定問題について
二、校名について
一 会則規約の改正

平成十五年度の総会で準会員入会金廃止が承認されましたので今年度も予算計上はしていません。

受章おめでとうございます

- ◇瑞宝双光章
・福田 實氏
◇黄綬褒章
・本澤 宗夫氏
(建築科昭和四十一年度卒)
◇旭日双光章
・町田 清氏
(建築科昭和二十八年年度卒)

同窓会事務局からのお知らせ

ご承知のように平成十七年四月より施行されていますが、個人情報保護法についてですが、本来確認作業を行うべきですが、会員の皆様には同窓会活動の趣旨ご理解頂いたものとして、今後進めさせて頂ければ幸いです。同窓会会員の皆様の個人データにつきましては八十周年時の名簿作成をお願い致しました(株)廣済堂データベース部にお問い合わせありますのでご安心下さい。尚、個人データの消去を希望される会員の方は葉書にて、事務局までご一報下さい。

平成17年度役員

Table of officers: 会長 (長男), 副会長 (三男), 監査 (三男), 顧問 (三男), 名誉顧問 (三男), 参事 (三男). Lists names of members.